



どんな生き物がいるのかな?
「冬水田んぼ」で生き物調査

下陳地区の冬水田んぼの中には、さまざまな生き物が暮らせるよう、1年中水を張つているヒオトーブ（※）があります。益城町立津森小学校では、九州大学島谷研究室の協力のもと、環境学習の一環として小学校近くの冬水田んぼで生き物調査を行いました。

「今年の冬にも調査をしたけれど、その時は間となりました。



これ何だらう?

※ヒオトーブ…野生動物の安定した生息地



益城町立津森小学校
佐藤浩介校長

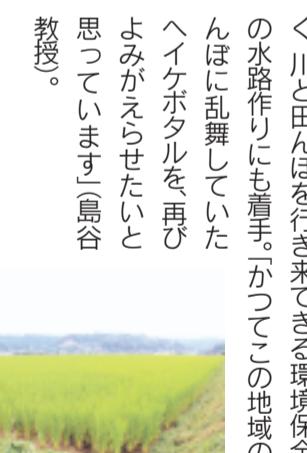
本校では、低学年から毎年田植えの実習を行うほか、4年次の冬と5年次の夏に、生き物の調査を行うなど、環境教育に力を入れています。豊かな自然の中で暮らしていく、いま目の前にある環境が当たり前の風景となり、そのありがたさを忘れないでいます。生き物調査を通して、子どもたちに自分の住む地域を知つてもらうとともに、自然という貴重な財産を守ることの大切さを学んでほしいと思います。



付加価値のある米作りで“創造的復興”
住民との協力で環境保全型の水路作りも



九州大学大学院工学研究院
河川工学・河川環境
島谷幸宏教授



木川と金山川に面し良質の米が採れる産地として知られる上陳、下陳地区。私はこの地域の田んぼを、もっとたくさん生き物たちが住めるようにしていくた
くの調査で見つかった生き物は15種類。
この地域に、以前どんな生き物がいたか聞いたところ、フナやウナギなど46種類の生き物の名前が挙がった。おじいちゃん、おばあちゃんたちが子どもたた頃のよう、いろんな生き物が住める、いい環境をつくつていこう!」

地域住民との連携で、冬水田んぼにさまざまな生き物が暮らせるだけでは



九州大学島谷研究室とサントリーの研究チーム

復旧を終えた「冬水田んぼ」に たくさん生き物たちが帰ってきた!

上益城郡益城町津森の上陳、下陳地区にある、水源涵養のための湛水農地「冬水田んぼ」。サントリー熊本地下水分りいブロジェクトでは、熊本地震で被害を受けた田んぼとの周辺の水路等の復旧に取り組み、工事がほぼ完了しました。

同プロジェクトは、この冬水田んぼで病害虫に強い、体力のある稻作りの支援を九州大学島谷研究室と行っています。

「例えば、田んぼに有機肥料を入れると、イトミミズやユスリカの幼虫のアカムシが増えてきます。すると小魚やオタマジヤクシ、ヤコなどが増えてくる。そういう生き物の多様性に満ちた田んぼでは、ウンカみたいな害虫がやつてきても、アマガエルやトンボ、クモなどが待ち構えていて稻を被害から守ってくれるのです」と、サントリーCSR推進部チーフスペシャリストの山田健さんは語ります。

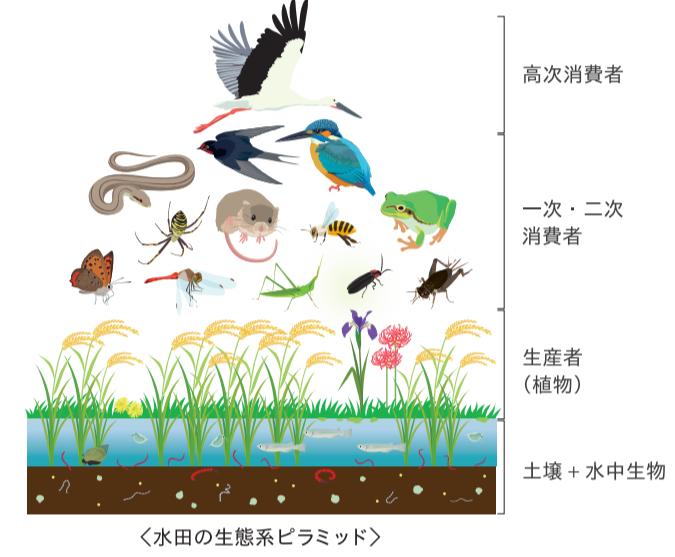
益城町の田んぼは、水が浸透しやすいのが特長です。このよ

うに、できるだけ農薬に頼らない農法を行うことで、安全でし

「冬水田んぼ」の復旧が完了
生き物の力を借り有機減農薬農業を支援

かもキレイな水が地下に浸透し、熊本の地下水涵養に結びついでいくのです【山田さん】。

サントリーホールディングスが、公益財団法人くまもと地下水財団、熊本大学と連携し、熊本の地下水を守るために実施している「サントリー熊本地下水みらいプロジェクト」。4回に分けて紹介する「シリーズ・熊本の水を守る」第2回は、「冬水田んぼ」と生き物の関係について取り上げます。江戸時代から伝わる日本の伝統農法が、生き物の多様性にどのように貢献しているのか。調査・研究を進める九州大学島谷研究室の取り組みと、子どもたちの生き物調査の様子を紹介します。



水の日記念シンポジウム開催 ～かけがえのないくまもとの地下水を未来に～

熊本地震を経験し 感じる水の大切さ

「水の日記念シンポジウム」(くまもと地下財団主催)が8月3日、熊本ホテルキャサスル(熊本市中央区)で開催されました。

リレー講演会ではまず、同財団の大西一史理事長(熊本県長)が登壇。「熊本地震後は、県内の43万戸が断水。熊本市内でも約2週間、水が止まって大変な生活を強いられたことで、水の大切さを痛感しました。地下水の涵養に取り組むためには、市民や企業の協力が必要」と訴えました。

次にテレビ熊本アナウンサーで気象予報士の郡司琢哉氏が『熊本の豊かな水資源について』と題し、水に関する取材時のエピソードを交え、講演を行いました。最後に熊本大学名誉教授の嶋田純氏が『熊本地震による地下水への影響と今後について』と題し講演。地震後、湧水池として知られる水前寺成趣園の水位が低下したことに触れ、断層活動に伴う地盤歪みの変化と地下水位のメカニズムについて分かりやすく解説し、「今後も地下水の水温調査や水位の解析、水質の変化などを見ながら、学術的な分析結果をまとめ、伝えていくのが私たちの役割」と話しました。

熊本地震から約1年半が過ぎた今、改めて熊本の水資源について考えるシンポジウムになりました。



水の日記念シンポジウムの様子

